

年中行事には是非ご参加ください

年中行事（正月祈祷・春秋彼岸・お盆法要）には是非ご参加ください。お盆の法要（おせがき）は近在の和尚様方

が出頭されて厳肅に行われます。春と秋の彼岸は、工夫をこらした催し物をしています。正月祈祷は一年をすがすがしい気分始めるための10分ほどの法要です。本堂はすべて椅子席です。お墓参りをするだけでは供養にはなりません。寺での行事にご参加ください。

お参りはご家族そろって!

寺やお墓参りはご家族でお参りください。親から子へ、子から孫へと引き継がれます。むずかしい仏教の教えも自然と理解できます。

年忌法要後の食事は寺でもできます

壇信徒会館（三階建）は、年忌法要後のお食事にお使いいただけます。壇信徒会館の二階は椅子席で二十席。三階も椅子席になりました。四十名くらいまで会食できます。出張して食事を用意してくれる店もご紹介できます。

墓所の工事をする時は寺へご連絡ください

各家の墓所を大きく改修する時、あるいは小さな修理等でも施工する石材店に工事をする上での注意事項がありますので、寺へご連絡ください。

なお、墓地を整備したため、十力所ほどの新しい区画があります。ご親戚やお知り合いが必要とされる方がおられましたら、お頒けすることがあります。詳しいことは寺へ直接ご連絡ください。



日曜の朝の坐禅

毎週日曜日の朝六時から七時まで、松岩寺本堂での坐禅にどなたでも参加できます。朝六時に鐘をつきますから、それまでに本堂に入ってください。初めの方にも丁寧に坐り方をご案内します。三十分ほど坐って休憩、残りの十五分ほど坐って、最後に般若心経をよんで七時に解散です。

別紙に「霊園管理費のお願い」を同封しました。

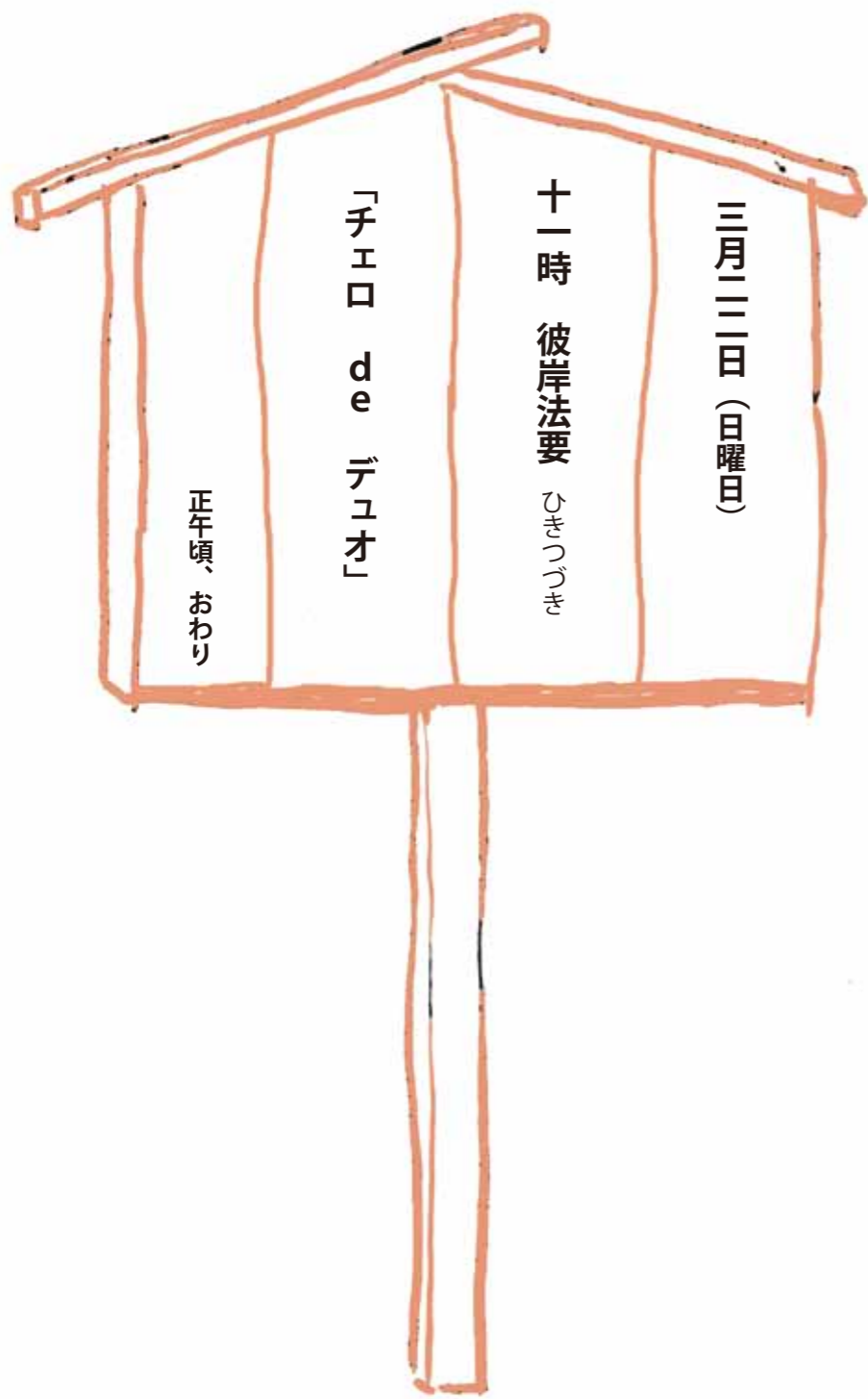
去年の春彼岸は本山・妙心寺より派遣された布教師さんの法話だったから、今年は音楽です。にぎやかにチェロが二つです。

「デュオ」だなんて。きどつた言い方しないで、二重奏っていえば、いいですね。でも、ただでさえ漢字が多い、寺からのおたよりだから、カタカナにしてみました。これまで、一つのチェロは何回かやってきたけれど、二つははじめて。ご期待ください。

本堂は全部椅子席です。席を用意する都合上、ご出席の方は電話・FAX・Eメール等でご連絡ください。

3月17日（火曜日）から22日（日曜日）まで、墓地では花と線香を用意しております。

お彼岸中に土・日曜日がくるのが後半になってしまうので、みなさんの利便をはかり6日間生花を用意しています。



霊園管理費のお願いが別紙にあります。

360-0815 埼玉県熊谷市本石 1-102 臨濟宗妙心寺派 松岩寺 住職 花岡博芳

tel 048-522-1812 fax 522-9189 www.shoganji.or.jp / chief@shoganji.or.jp

編集後記

※左のページで「ただでさえ漢字が多い寺からのおたよりだから、カタカナにしてみました」と、書きました。もうひとつ、漢字が多くなる原因があります。文章を書くのに、ワープロを使っているから。「切り取り」「コピー」「挿入」なんでもござれの便利な道具は、自分ではかけない漢字まで書いてくれるので、どうしても漢字の多い文章になる。たとえば、ちょうど真上にある「お頒けする」の「頒」は辞書を見ないと書けないな。ペンを持って原稿用紙の前にすれば、「おわけする」と表記するでしょう。漢字が多いと、かたくて黒い紙面になって、今どきの人からは敬遠される。でも、やはり、漢字には魅力があります※この原稿を書いているのは、新型ウィルスが猛威をふるっている2月8日です。この日の「日経新聞」第一面「春秋」欄で、日本から中国への支援物資の箱に「山川異域、風月同天（国は異なれど天は同じ）」の文字が書かれていて、現地のSNS（交流サイト）の感動を呼んでいる、と紹介されていました。「山川異域、風月同天」は、奈良時代に中国から日本へ仏教の奥義を伝えるため、何度も海をわたろうとするも、ことごとく失敗し、6度目にやっと屋久島にたどりついた、鑑真和上が日本行きを決意するきっかけになった句だという。「山川異域、風月同天」。字をながめるだけで、なんとなく意味がわかる。それが漢字の素晴らしいところ。が、山や川は異なっている、月だけでなく、同じウィルスが流れてきてしまうのは困ったものですね※昨年、某新聞の歌壇に投稿された短歌に次のような作品がありました。「梅の実も律令制も大陸に謙虚に学んだ大和の心」。新しい元号、令和の出版は日本書紀と強調する政府への苦言でしょうか。失明してまで鑑真和上は海を渡ってきてくれましたが、和上へ日本行きを決意させたのは、謙虚に懇願した日本僧の存在がありました。その僧は願ひかなうことなく、中国で旅の途上、客死しています。命をかけて願う者がいて、命をかけてこたえる者がいる。これは、凄い。（住職記）